

(様式1)

平成25年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 029	提案機関名 普及指導部作物加工課
要望問題名 県内で発生している麦類の赤かび病菌の毒素産生型の特定	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 平成24年産の大麦及び小麦で麦類赤かび病が多発したが、赤かび病菌の菌種により産生される毒素産生性が異なるため、県内で発生した赤かび病菌の毒素産生型の特定をお願いしたい。 県内全域 小麦39ha 大麦6ha	
解決希望年限	<input type="checkbox"/> 1年以内 <input type="checkbox"/> 2～3年以内 <input type="checkbox"/> 4～5年以内 <input type="checkbox"/> 5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input type="checkbox"/> 農業技術センター <input type="checkbox"/> 畜産技術所 <input type="checkbox"/> 水産技術センター <input type="checkbox"/> 自然環境保全センター
備考	

ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	野菜作物研究部
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 継続検討 <input type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 調査指導対応 <input type="checkbox"/> 現地対応 <input type="checkbox"/> 実施不可		
試験研究課題名 (、 、 の場合) 病害虫の診断同定および発生生態の解明に基づく予察・防除技術の確立			
対応の内容等 ムギ類赤かび病菌の主要病原菌は <i>Fusarium graminearum</i> 種複合体で、国内では <i>F. asiaticum</i> と <i>F. graminearum</i> s strの2種類が報告されています。また、菌が産生するトリコテセン系毒素の生産型にはDON型とNIV型が存在し、DON型は3ADON型と15ADON型に分けられることがわかっています。過去、関東・東山地域で分離された菌はDON産生型が50.0%、NIV産生型が46.2%の割合であったと報告があります(中央農研研究報告2008)。これらの菌種及び毒素生産型はマルチプレックスPCR法で判定できるため(九州沖縄農業研究成果情報2010)、この方法を用いた試験について農業環境研究部と協力して取り組みます。			
解決予定年限	<input type="checkbox"/> 1年以内 <input type="checkbox"/> 2～3年以内 <input type="checkbox"/> 4～5年以内 <input type="checkbox"/> 5～10年以内		
備考			